



ハハコグサ（母子草）＜キク科・ハハコグサ属＞

春の七草のひとつでオギョウ（御形）とも呼ばれ、水田や庭、道ばたに生える越年草。秋から冬はロゼットで過ごし、春先に10~30 ㍍ほどの茎を伸ばし、たくさんの黄色い頭花とうかを付ける。名は、全草が白い綿毛かんもつに覆われている様子や、冠毛が「ホホケル（毛羽立つ）」という意味の「ホウコグサ」が訛ったとの説がある。摘むとヨモギに似た香りがして、かつては草餅に使われた。近似種にチチコグサがある。・・・▼友人の裏山の畑に咲いていたハハコグサ。ぽっかりとした陽だまりに、ちんまりとしたたたず 佇まいでおさまっていた。▼東日本大震災から間もなく8年が経とうとしている。そして今、世界を脅かす新ウイルスの脅威もまたわかり。日常の何気ない暮らしがどれ程尊いものか、ことさら身に染み入る人も多かるう。▼だからこそか、母子草（ハハコグサ）の花言葉が心の琴線に触れる。「忘れない」「いつも想っています」～佐伯区湯来町 2020・3～